

<英文法超基礎⑧> Lv.★★★★☆☆ 助動詞⑩

① had better V

had better Vは「1. 強い忠告・命令を表す。会話では ~'d better と短縮されることが多い。」の意味となり。
 You had better [You'd better] take a rest. 「休みをとらないといけない。」

< had better の否定の形 >
 否定: S + (2. You had better not tell him the truth. ← (X) You had not better
 「彼には本当のことを話してはいけない。」 better

※控えめに言いたい場合は (4. It would be better for you to hurry. 「急いだ方がいいですよ。」) を使う。
 強さの順: must > had better > should, would be better for you to V

② 助動詞の need

助動詞の need は (5.) ではない! ← 入試に出るのはほとんど否定文!
 • (6.) : 「7.)
 = (8.)

You need not worry. 「心配しなくていいよ。」
 = You don't have [need] to worry.

• (9.) : 「10.)

Need he come? 「彼は来る必要があるのか?」
 = Does he have [need] to come?

肯定文 (~する必要がある) で使う場合は (12.) で表す!

③ 助動詞の dare

dare 「13. 」は動詞としても用いられるが、疑問文・否定文では助動詞として用いることもできる。次のような形で使われる。

(14.) : 「15. 」 ← いらだちを表す
 (16.) : 「17. 」
 (18.) : 「19. 」

4 過去のことについて推量する表現

「過去の事柄」の推量を表すには、後ろに (20.)をつける。

• may / might have Vp.p. : 「21.

He may have missed the train. 「彼は電車に乗り遅れたのかもしれない」

I might have caught cold. 「(ひょっとすると)風邪をひいたのかもしれない」

→ mayと比べて、かなり自信のない推量を表す。

• could have Vp.p. : 「22.

I could have been wrong. 「ひょっとしたら、私が間違っていたかもしれない」

→ may・mightよりも確信の度合いが低く、起こり得る可能性への控えめな判断を表す。このケースでは canは用いられない!

• must have Vp.p. : 「23.

He must have been at the library at that time.

「彼はそのとき、(絶対)図書館にいたに違いない」

• can't / couldn't have Vp.p. : 「24.

She can't [couldn't] have failed the exam. 「彼が試験に落ちたはずがない」

→ couldを使うと、弱い表現になるので can'tを使うことが多い

5 過去のことに対する非難・後悔を表す表現

< should have Vp.p.の2つの用法 >

① should [ought to] have Vp.p. : 「25.

I should [ought to] have studied harder. 「もっと勉強すべきだった」

→ 「やるべきだったのに、実際にはやれていない」という後悔を表す

should not [ought not to] have Vp.p. : 「26.

You should not [ought not to] have done it. 「それをするべきではなかった」

→ 「やるべきではなかったのに、実際にやってしまった」という後悔を表す

☆ S should have known better than to V : 「27.

② should [ought to] have Vp.p. : 「28.

She should [ought to] have returned by now. 「今ごろはもう彼女は戻っているはずだ」

→ この用法は否定形はない & by now 「今ごろはもう」とよくセットで出る!